

第4章

景観形成重点区域（候補）の設定と 景観形成方針案



「林の中の神社」（高木神社） 落合小学校5年 小島 琥太郎 さん

第4章 景観形成重点区域（候補）の設定と景観形成方針案

本町を代表する特徴的な景観を有し、特に重要な地区である「英彦山地区」と「添田本町等地区」を「景観形成重点区域」の候補に位置付けます。

今後、地域住民の意向を確認し、景観形成重点区域として指定を目指します。

なお、景観形成重点区域は、今後の町の景観形成における重要性の高まりや、住民意識の高まりにより、必要に応じて範囲の拡大（追加指定）や新たに指定をすることとします。

1. 景観形成重点区域（候補）の設定

景観計画区域（町全域）のうち、本町を代表する特徴的な景観を有し、特に重要な地区を「景観形成重点区域」、それ以外の区域を「景観形成一般区域」として位置付けます。

景観形成重点区域では、地区の特性に応じたよりきめ細かい景観形成基準を定め、重点的な景観誘導・規制を図ることを想定し、まず景観形成重点区域の候補として「英彦山地区」と「添田本町等地区」を位置付けます。今後、地域住民の意向を確認した上で、景観形成重点区域として指定を目指します。

なお、今後の町の景観形成における重要性や住民意識の高まりにより、必要に応じて景観形成重点区域範囲の拡大（追加指定）や他の区域を新たに指定できることとします。

2. 景観形成重点区域（候補）の景観形成方針案

景観形成重点区域（候補）：英彦山地区

1) 英彦山地区を景観形成重点区域（候補）に設定する理由

- 耶馬日田英彦山国定公園に指定されており、古くから霊験あらたかな山として修験道の聖地であり、現在も自然林が残されている自然豊かな地区であるため。
- 国指定重要文化財である英彦山神宮奉幣殿や国指定名勝である英彦山庭園など国・県・町指定の文化財が数多く存在し、英彦山自体も国指定史跡となっており、神幸祭などの祭礼が現在も地域の人々に受け継がれており、歴史的・文化的に非常に価値の高い地区であるため。
- 登山や英彦山神宮参拝など、本町を代表する観光地であり、観光地景観として今後も保全していくことが強く求められるため。
- 「歴史的風致維持向上計画」において、重点区域に位置付けられており、歴史的風致の維持向上のための事業実施と合わせて、現状の歴史的風致を保全するための規制・誘導が求められるため。

2) 景観形成重点区域（候補） 英彦山地区の範囲案

英彦山地区における景観計画区域の設定にあたっては、英彦山神宮の参道を中心としつつ、英彦山の山頂に鎮座する英彦山神宮上宮や関連する歴史的建造物等を包含する区域とし、「添田町歴史的風致維持向上計画」における重点区域の設定と同様に、古くから英彦山としての地域のつながりを示す古地図『英彦山境界絵図』の範囲とします。

具体的には、北側を別所河内から北坂本へ至る道路と北坂本神社の敷地境界、南側へ至る県道418号、北坂本集落内の道路、ひこさんホテル和の敷地、国道500号線から北へ幅30mの線を結ぶ区域とし、西側を別所河内から南坂本へ至る山林内を通る道路とし、南側を汐井川と登山道で結ぶ区域とし、東側を英彦山を中心とした尾根沿いとして、その区域を設定します。

図 4-1 景観形成重点区域 英彦山地区の範囲 約 1,177.2ha



【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】

3) 景観形成重点区域（候補） 英彦山地区の景観の現状

英彦山神宮の門前町として形成された本地区は、歴史的な建造物が多く存在する歴史・文化に富んだ地区です。銅鳥居から英彦山神宮奉幣殿まで続く石段の参道沿いには、かつての山伏たちの拠点であった宿坊跡が数多く見られます。また、周囲の厳かな雰囲気有助長する豊かな自然と歴史・文化が一体となった景観が形成されており、通年で様々な景色が楽しめることから町内外問わず人気のスポットです。

しかし、高齢化に伴う人口減少が顕著に見られる本地区では、空き家・空き地が増加しており、管理の行き届かない家屋や荒廃した山林が点在しており、周囲の景観を阻害しています。

4) 景観形成重点区域（候補） 英彦山地区の景観形成方針案

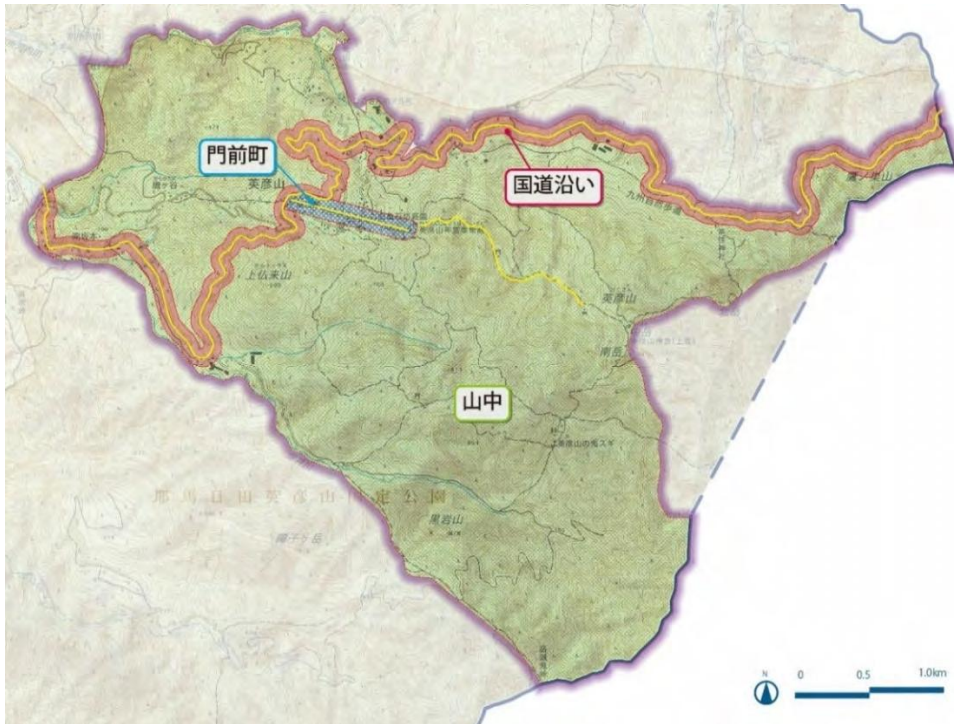


図 4-2 景観形成重点区域 英彦山地区のゾーン範囲【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】

英彦山地区全体

- 英彦山神宮の様々な史跡が残るゾーンとして、文化財保護法や歴史的風致維持向上計画と合わせて、本町の歴史・文化・自然を象徴する景観を保全します。

国道沿い

- 眺望ポイントからの眺望を阻害する樹木は適切に剪定・伐採を行います。
- 建築物や屋外広告物は、英彦山の歴史的イメージ・風格を阻害しないデザインや色、大きさとしします。

門前町

- 英彦山神宮を象徴する石段の参道沿いの町並みを保全し、風格ある門前町の景観形成を行います。
- 建築物や屋外広告物は、英彦山の歴史的イメージ・風格を阻害しないデザインや色、大きさとしします。特に参道側の意匠については、地域の伝統を考慮した景観形成を図ります。

山中

- 史跡英彦山を構成する要素が残る本ゾーンでは、多くの範囲が保安林として指定されているため、本機能に則り維持管理を行い周囲の自然景観を保全します。

景観形成重点区域（候補）：添田本町等地区

1) 添田本町等地区を景観形成重点区域（候補）に設定する理由

- 当区域は、岩石城の城下町として整備され古来よりの行政を担った手永役人や庄屋があった地域で、古来の添田町の礎を担った地域であるため。
- 添田本町等区域には、重要文化財 中島家住宅や添田公園、岩石山などがあり、英彦山区域とともに、多くの方に親しまれている区域であるため。
- 重要文化財である中島家住宅は、庭園を含めた屋敷構えを保全・公開することで地域の歴史・文化を発信し、地域交流の場、添田町の観光拠点としての活用が進められており、中島家住宅のみでなく、その周辺のまちなみ全体で歴史・文化を感じられる地区となるよう規制・誘導が求められるため。
- 「歴史的風致維持向上計画」において、重点区域として位置付けられている範囲のうち、歴史的風致の維持向上のための事業実施と合わせて、現状の歴史的風致を保全するための規制・誘導が求められるため。

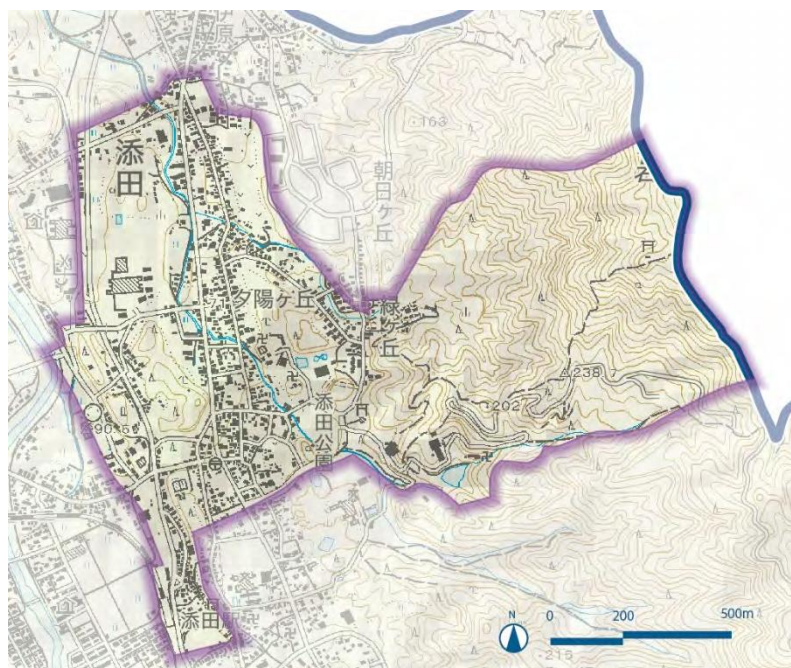
2) 景観形成重点区域（候補） 添田本町等地区の範囲案

添田本町等地区における景観計画区域の設定にあたっては、日田道を中心としつつ、岩石城跡と城下町のまとまりを認識でき、白山神社等の社寺や神幸祭の経路を包含する区域とし、「添田町歴史的風致維持向上計画」における重点区域の設定と同様に、古くから添田本町としての地域のつながりを示す古地図『添田本町大絵図』の範囲とします。

具体的には、北側を岩石山から下る登山道と清水川、日田道沿道に接する敷地背面の農地を含む敷地境界、道路を結ぶ区域とし、西側を岩瀬から添田駅へ至る道路と町役場を包含する道路、添田駅へ至る道路を結ぶ区域とし、南側を添田駅から添田公園へ至る道路と岩石山へ上る登山道を結ぶ区域とし、東側を行政界として、その区域を設定します。

図 4-3 景観形成重点区域
添田本町等地区の範囲
約 124.3ha

【国土地理院発行
2.5 万分 1 地形図に加筆】



3) 景観形成重点区域（候補） 添田本町等地区的景観の現状

本地区は、住宅地や商業施設が集中する添田まちエリアの東側に位置し、岩石城の城下町として整備され、日田道沿いには国指定文化財をはじめとする歴史的建造物等が存在しています。岩石山は、気軽に登山を楽しめる山として、登山者からの人気を集めています。

しかし、現在では昔ながらの商家や町家の多くが取り壊され、現代的な建築物が増加し、城下町として栄えた当時の様子は薄れつつあります。また、かつて賑わいを創出していた添田駅前も、消費者のニーズの変化などに伴い商店街の空き店舗が多くなっています。

4) 景観形成重点区域（候補） 添田本町等地区的景観形成方針案

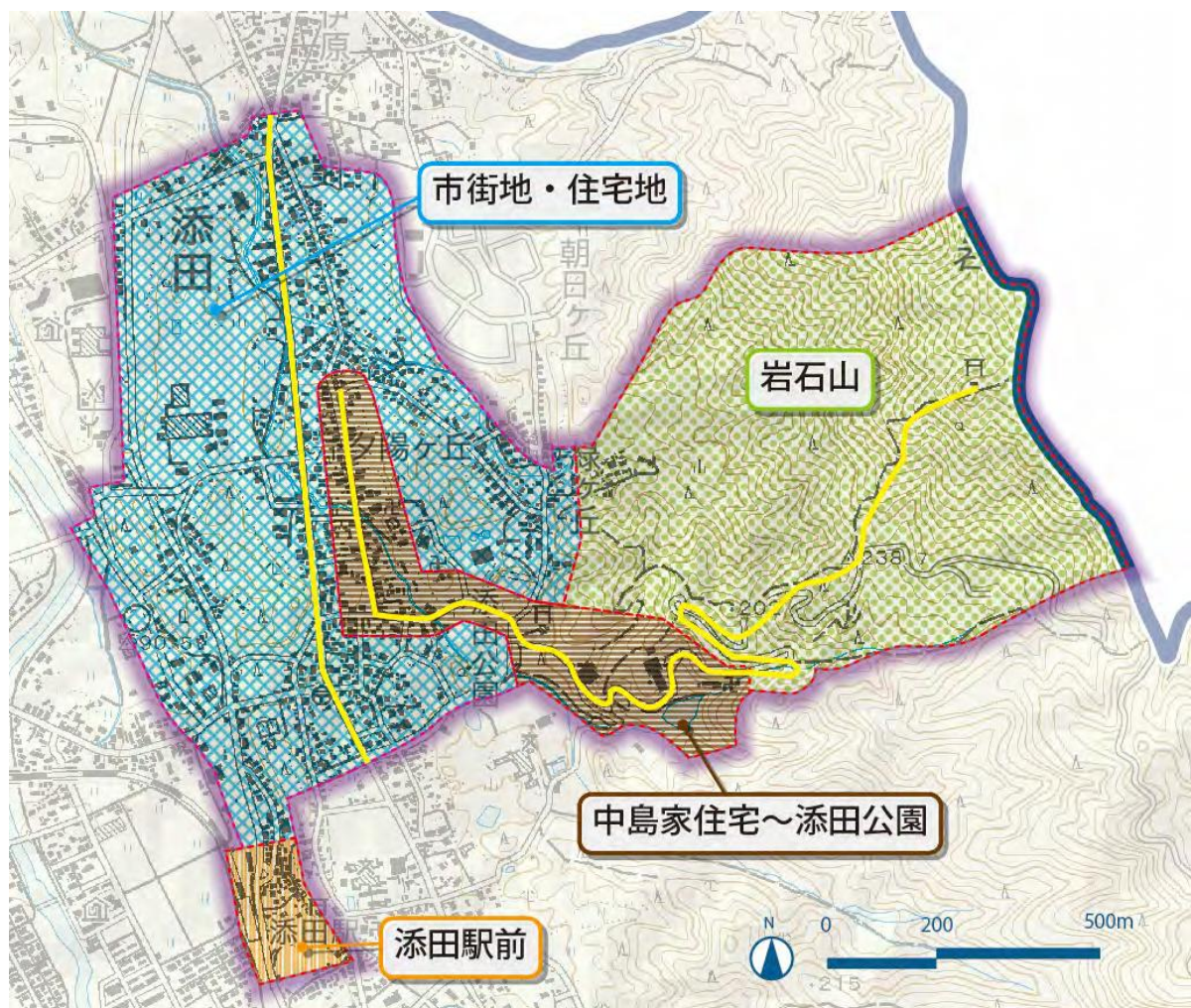


図 4-4 景観形成重点区域 添田本町等地区的ゾーン範囲
【国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図に加筆】

添田本町地区全体

■添田町の商業・居住の中心であり、歴史文化の集まる地区として、連続性のある町並み形成に努めます。

中島家住宅～添田公園

■多数の歴史的建造物が点在している、本地区の歴史・文化を象徴するゾーンとして、歴史的な町並みの形成に努めます。

添田駅前

■添田町の玄関口としてふさわしい周囲の景観と一体した町並み形成に努めます。

■賑わいと魅力ある町並みの形成を目指します。

市街地・住宅地

■建築物や屋外広告物は、背景にある岩石山等の自然や地区の歴史的イメージ・風格を阻害しないデザインや色、大きさとします。

岩石山

■登山道からの眺望を保全し、四季折々の自然を身近に楽しめる良好な自然景観を育みます。

3. 景観形成重点区域の指定までの流れ

景観形成重点区域として指定されるには、原則として、まず景観形成重点区域（候補）となります。その後、景観形成重点区域における景観形成方針や景観形成基準を作成し、地域への説明等により地域の合意形成を図り、景観形成重点区域に指定されます。

